

精巣胚細胞腫瘍、特に非セミノーマの腫瘍進展に関わる 分子遺伝学的因子の網羅的検索

1. 研究の対象

1986年～学校長承認日までに当院にて原発性精巣腫瘍の診断で外科的切除を受けられた方

2. 研究目的・方法

現在、原発性精巣腫瘍の治療においては、精巣摘出術という手術の後に放射線療法や化学療法などの後療法が用いられるのが一般的です。精巣腫瘍は、生命予後が比較的良好なセミノーマと、治療に抵抗性を示し、転移や再発を来すことが多い非セミノーマに大きく分けられています。また、精巣腫瘍では、セミノーマが非セミノーマに変化して悪性度を増すと一般的に考えられています。

私たちは原発性精巣腫瘍に対する手術を受けられた患者さんの病理検査標本を用い、精巣の細胞が腫瘍化する際や腫瘍になったあとで生じた腫瘍細胞の中の異常な分子や染色体の変化を調べることで、腫瘍の発生や進展の仕組みを推定する研究を進めています。そこから得られた情報は、精巣腫瘍の治療に対する反応性の予測や、新しい治療の開発に役立つと考えています。

本検討では、腫瘍に含まれる DNA や RNA という物質を取り出し、がん関連遺伝子の構造を解析します。近年、技術革新が進んだことにより、染色体全域のがん関連遺伝子の多様性と病気との関わりを調べることができるようになりました。調べる対象は、現在明らかになっている精巣腫瘍の主要な病因遺伝子を含め、関係する可能性のある数多くのがん関連遺伝子です。正常組織における染色体配列の解析、いわゆるゲノム解析は行いません。研究期間は防衛医科大学学校長承認後から令和4年3月までを予定しています。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

患者さんのデータはすべて匿名化されて使用しますので個人が特定されることはありません。

情報：病歴、抗がん剤治療の治療歴 等

試料：手術時の病理組織標本

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、

資料 3

研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住所：〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2 防衛医科大学校 臨床検査医学

氏名：宮居 弘輔

電話：04-2995-1505（内線 2275）

FAX：04-2996-5192

研究責任者：

防衛医科大学校臨床検査医学講座 松熊 晋